

第4節 森林の整備

1 森林の構造、配置

海岸に近く潮風及び飛砂の影響を受ける森林の前線部は、クロマツ林、潮風及び飛砂の影響を受けない区域は、病虫害被害等によるリスクを軽減させるため、クロマツと広葉樹による混交林又は広葉樹林を育成する。（機能強化）

2 植栽の密度

植栽密度は、防災機能を満たしつつ、現地の状況に応じた本数とする。（コスト縮減）

3 湿地対策、雨水処理

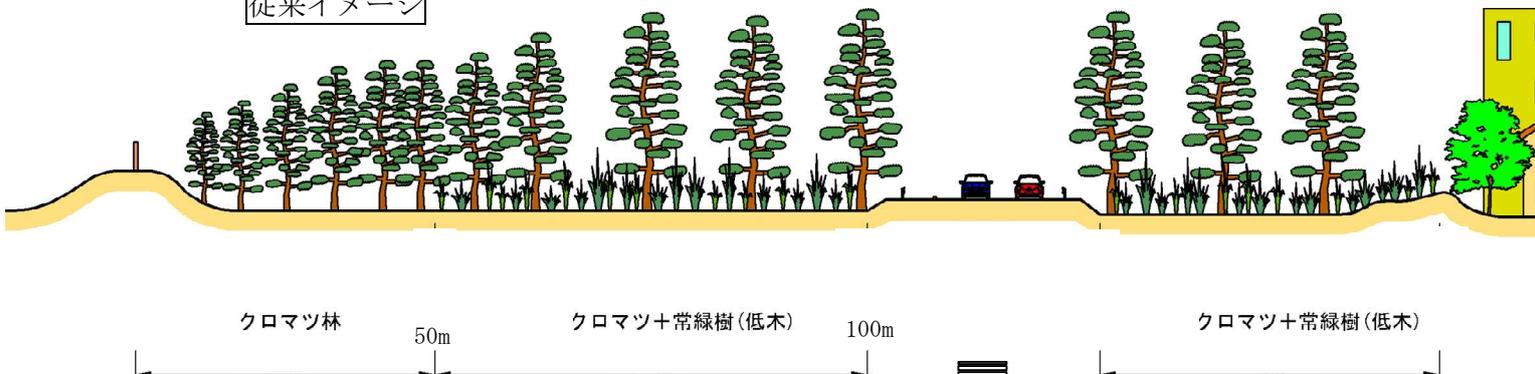
- 1 植栽地は、湿地等の地下水位が高い箇所では盛土造成し、植栽木の根系の生長を図る。
- 2 植栽地の雨水処理は、水路を設けて排水を図る。

1 森林の構造、配置

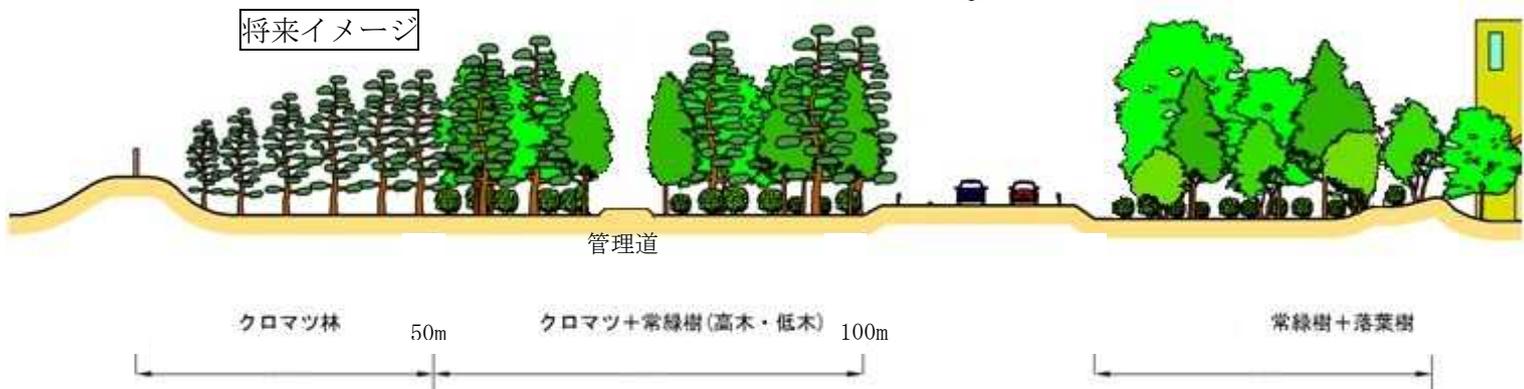
森林の林形は、森林の前にある砂丘等を起点に自然な林形を形成させる。

森林の樹種は、潮風が直接あたる海側前線部（概ね 50m）にはマツ類を植栽するなど、飛砂、潮風に対する抵抗性等の樹種特性や植栽地の状況等を考慮した配置が必要であり、後方になるにしたがって低層木の充実、松くい虫被害による機能の喪失防止、生物多様性の保全などの観点から広葉樹を積極的に導入する。なお、植栽配列は、成長や管理し易さにも配慮する。

従来イメージ



将来イメージ



2 植栽の密度

植栽本数は、治山技術基準により 1 万本/ha が標準とされているが、飛砂、潮風の樹木への影響を低減できる場合など、植栽地の環境に応じて植栽本数を減少することも検討できることから、コスト削減による整備進捗の早期化のためにも、森林の幅が一定以上ある区域では、植栽本数を減らすこととする。

3 湿地対策、雨水処理

海岸のクロマツは、根系の垂直深が 80cm 程度以上に伸びられれば比較的良好な生育が期待できることから、盛土高は、地下水位面の最高位より 80cm 以上盛土して植栽する。

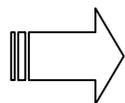
また、東日本大震災による地殻変動等で、過去に把握している地下水位値に変動が生じている可能性があることに留意する。

なお、盛土用土砂については、河川の浚渫土砂等の建設発生土や、震災による液状化で発生した土砂を利用する。

雨水処理については、植栽に併せて、効果的な位置に水路工を配置していく。



施工前（山武市松ヶ谷）



施工後



水路工